
バカと兄貴と召喚獣

直井刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと兄貴と召喚獣

【NZコード】

N4136BA

【作者名】

直井刹那

【あらすじ】

この小説は『バカとテストと召喚獣』の一次創作です。オリ主は明久と幼馴染であり、頼れる兄貴的存在である。そして明久が双子の兄という設定になり、明久の妹と明久と幼馴染のオリ主が秀吉、雄一、ムツリー二等のFクラスメンバーや翔子や愛子、優子などのAクラスメンバー達と楽しく可笑しく毎日を過ごしていく物語です。

プロローグ

僕たちが文月学園に入学してから2度目の春が訪れた。

校舎へと続く坂道の両脇には新入生を迎える為の桜が咲き誇つている。

別に花を愛でるほど雅な人間じゃないけど、その眺めには一瞬目を奪われる。

はずだつたのだが・・・・・・

明久「遅刻だあ―――っ――！」

なぜかと言つと、俺たちは初日の始業式からいきなり遅刻しそうになつてゐからだつた。

何故こんな事になつたかといふと

・・・・・・・・・・・・・・・・・・

健「咲耶、そろそろ時間だから明久を起こしてきてくれるか」

俺は明久の家に住ませて貰つていて

いつものように朝食を作つてまだ寝ている明久を
明久の双子の妹の咲耶に頼んで起^くしてもらつていた。

月火「わかつたよ健君」

そして今日は文月学園2度目の中学校の始業式の日である。

咲耶「お兄ちゃん朝だよー起きないとー」

明久が朝いつものように起^くされていたのが始まりだ。

始業式当日の今日の朝方までゲームをしていたらしく全然起きなくて
やつと起きたと思ったら何故か昔の姉の制服を着ており、
また着替えるという作業をしていて気づいたら時間がヤバいということだ。

・・・・・・・・・・・・

健「これというのも、お前が寝坊して間違つて玲さんの制服なんか
着るからだぞーーー！」

明久「う、うめん。ゲームのキリがつくなくてさ」

健「昨日あれほど言つただろ！」

せめて始業式の日ぐらいは遅刻したくなかったのに」

といつわけで俺達は学園へと続く坂道を登つてゐる。

長い坂道を登りきると

西村「吉井兄妹、神崎、遅刻だぞ」

「ドスのきいた声に呼び止められた。

明久「あ、鉄じ——西村先生、おはよ(?)ぞ」

健「鉄人ちっす！」

咲耶「西村先生おはよ(?)ぞ」

鉄人「吉井妹おはよう。それと吉井兄、今鉄人って言わなかつたか
？」

おお、鋭い。

明久「ははっ、氣のせいですよ」

鉄人「ん、そうか？それと神崎は堂々と鉄人というな

健「反省はしてるけど後悔はしない！」

鉄人「後悔もしろ！……まあいい」

あついいんだ。

鉄人「それよりお前ら普通に『おはよつゝぞれこます』じゃないだろ」「

明久・健「今日も肌が黒いですね」

鉄人「……お前らは遅刻の謝罪よりも俺の肌の色の方が重要なのか？」

明久・健「そつちでしたか。すみません」

鉄人「まったくお前らは……まあいい。ほら、受け取れ」

鉄人が俺達に封筒を差し出してくる。
宛て名欄には大きく俺達の名前が書いてあった。

咲耶「お兄ちゃんはどのクラスだった？」

明久「どうだろ？ 健と月火は頭良いからAクラスじゃない？」

咲耶「…………どうだろ？」

咲耶は言葉を濁しながら言ひ。

……と、明久が封筒を開けるのに苦戦している時、

鉄人「吉井兄。今だから言つがな。

俺はお前を去年1年見てきて『もしかすると吉井兄はバカなんじやないか？』

なんて疑いを抱いていた

明久「それは大きい間違いですね。そんな誤解をしてるようじゃ、更に『節穴』なんて渾名を付けられちゃいますよ?」

鉄人「ああ、振り分け試験の結果を見て、先生は自分の間違いに気が付いたよ」

そこで俺達が封筒を開けると

『吉井 明久……Fクラス』

『雲雀 健……Fクラス』

鉄人「お前は『大馬鹿』だ」

明久「つてちょっと待つてください!まあ僕はFクラスかもしれないと思つていたけど」

健「自覚はしてたんだ」

明久「……まあ。つてかなんで2人がFクラスなんですか?」

咲耶「それはねお兄ちゃん。

私、試験中に具合が悪くなつて途中退席したからFクラスな

の

健「で、俺はその咲耶を保健室から連れて行くため教室から出たからFクラスになつたんだ」

明久「……そうだったんだ」

鉄人「まあ俺個人としての意見だが、あの時の神崎の行動は良かつたと思つてゐるぞ」

健「ありがとうございます」

鉄人「さあ、なら教室に向かうんだ」

こうしてボクたちの一年目の高校生活が、幕を開けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4136ba/>

バカと兄貴と召喚獣

2012年1月10日22時49分発行